

平成 28 年度

地域志向型教育・研究プロジェクト実績報告書

国立大学法人 小樽商科大学

【本件に関するお問い合わせ先】
小樽商科大学企画戦略課地域連携戦略係
TEL: 0134-27-5234
E-Mail: cocjimu@office.otaru-uc.ac.jp

●平成28年度「地(知)の拠点整備事業」地域志向型教育・研究プロジェクト 目次

【研究】

- | | | | |
|---|--|-----------|------|
| 1 | 北海道を世界に発信するための英語表記の実態調査 | 小林 敏彦 | …… 1 |
| 2 | ニセコ観光局プロジェクト協議会(倶知安町、ニセコ町)との連携による、長期滞在型観光に関する調査・研究 | プラート・カロラス | …… 2 |
| 3 | 余市町における観光を主軸とした地域経済活性化に関する調査・研究 | 西山 茂 | …… 3 |
| 4 | キャラクターでつなげる地域の輪プロジェクト | 川本 雅史 | …… 4 |
| 5 | 観光資源開発としての小樽市立病院・医療ツーリズム事業の実現可能性調査 | 伊藤 一 | …… 5 |
| 6 | Google Map APIを利用したおたるウォーキングマップ・アプリの開発に向けて | 佐山 公一 | …… 6 |
| 7 | 小樽・後志地域における北前船の歴史的価値の観光資源化 | 高野 宏康 | …… 7 |

【教育】

- | | | | |
|---|--|----------|-------|
| 1 | 旧国鉄手宮線で巡る外国人観光客のための小樽散策マップ作成プロジェクト | 井上 典子 | …… 8 |
| 2 | 地域企業の成長戦略に関するケーススタディと企業家教育—後志地域と先進事例の比較分析— | 加藤 敬太 | …… 9 |
| 3 | 地域の問題を知り、討論を通じて解決のきっかけを考えるための分野横断的ゼミ対抗ディベート大会 | 柴山 千里 | …… 10 |
| 4 | 歴史的建造物保存・活用のためのファンド形成プロジェクト | 江頭 進 | …… 11 |
| 5 | 「しりべし一般教養テスト」の作題を通じた地域理解の試み～テスト理論に基づく地域連携と興味喚起の実践～ | 辻 義人 | …… 12 |
| 6 | 後志地域の情報を「効果的」かつ「継続的」に伝える方法 | 木村 泰知 | …… 13 |
| 7 | 小樽・後志におけるヒューマンストーリーの発掘と地域資源化 | 後藤 英之 | …… 14 |
| 8 | (株)小樽水族館公社および(株)北海道マリパークにおけるBSCによる戦略の比較 | 上山 晋平 | …… 15 |
| 9 | 外国語表示の拡大等を通じた、おたる水族館の利便性向上のための取組み | サーマン・ジョン | …… 16 |

1. プロジェクトの目的・概要

本プロジェクトは、北海道を訪問する外国人の便宜を図る手法のひとつとして、英文掲示物の数を増やすことを最終目的とし、その前段階としてまず道内の街角、建物の中、店舗、宿泊施設等における英文掲示の実態を把握するために現地に赴いて撮影し分析するものである。北は宗谷地方(稚内、利尻)から根室、函館、札幌、小樽、千歳、洞爺湖等の観光地を中心にできる限りのフィールド調査を行い、今後の対策の指針とする。

2. 具体的な取組内容

本プロジェクトは、全道の主要都市に足を運び、実際に歩き、対象となる英文表示物を見つけ次第カメラで撮影し、分析し、その傾向とその背後にある社会的環境を考察した。

3. プロジェクトの成果及び地域への還元

今回のプロジェクトは、データの収集までとなっているが、今後同様のプロジェクトを継続することができるなら、掲示主体となる店主や経営者、自治体担当者に現状を伝え、改善を文書や面接を通じて伝える所存である。また、英文表記をする人のために、公共での英文表記のマニュアルを作成し、配布することも視野に入れたい。

ニセコ観光局プロジェクト協議会(倶知安町、ニセコ町)との連携による、長期滞在型観光に関する調査・研究プロジェクト代表者:プラート カロラス

1. プロジェクトの目的・概要

本プロジェクトは、国際的なリゾート地へ向けてブランド力の向上を図っていく必要があるニセコ地域において、インバウンドの増加と滞在期間の延長に寄与することを目指すもので、具体的な取組みとして、ニセコ地域を含んだ広域観光における課題調査、国内観光(インバウンド、新幹線)の現状と課題の調査等を行っています。

平成26年度(今年度で3年目)からの継続プロジェクトで、今年度は昨年度の調査で判明した以下の課題を中心に調査を行いました。

- ①北海道新幹線開業に伴う「函館～ニセコ～札幌」の移動ルートの検証
- ②激増したインバウンドと日本人観光客との共存策の検討

2. 具体的な取組内容

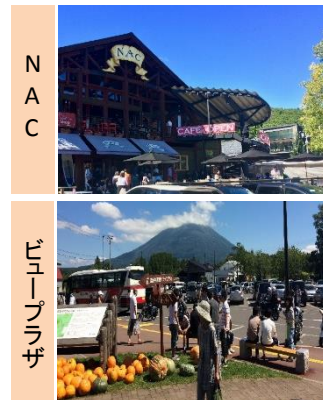
①アンケート調査スケジュール

アンケート調査:2016年8月27-28日(2日間) 214サンプル回収

2 チーム編成(教員1名、学生4名)

チームA:ニセコビュープラザ(道の駅)

チームB:高橋牧場・ヒラフ坂・NACニセコ店



3. プロジェクトの成果及び地域への還元

今年度プロジェクトの成果として、以下の調査結果が得られました。

①ニセコ地域の観光動態について

今回の調査では前回と比べ北海道内の観光客比率が増加しました。北海道内の観光客の動態については前回調査と大きな違いはありませんでした。一方で、北海道外の観光客については、ニセコを目的地とせず、札幌、小樽、函館などの観光地を目的とし、その移動途中にニセコに立ち寄っている行動パターンが確認できました。

②予約方法、宿泊先の多様化

宿泊に関する予約方法についてウェブ(旅行サイト・宿HP・民宿サイト)の回答が半数を占めたが、その他の回答も多く、内訳をみると、車中泊や親戚・知人宅での宿泊、コテージやキャンプ場での宿泊といった回答もあり、夏季のニセコにおいて宿泊先が多様化していることがわかりました。

③北海道新幹線開業の影響について

今回の調査では、北海道新幹線開業に伴う影響を測定するため新規に調査項目を設定しましたが、北海道新幹線を利用してニセコへ移動した回答は1サンプルでした。その行程をみると、ニセコ地域から新幹線利用、函館まではレンタカー利用でした。函館(新幹線駅)からニセコ地域までの公共交通機関整備が完全でないことが要因とも考えられますが、全員を対象とし北海道新幹線開業に伴うコメントでは「今回利用を検討したが函館からニセコまでの交通手段が見つからなかった(神奈川)」との回答もあり、函館～ニセコへの公共交通機関情報が周知されておらず、利用に繋がっていないのではないかとということが課題としてあげられます。

余市町における観光を主軸とした地域経済活性化に関する調査・研究

プロジェクト代表者：西山 茂

1. プロジェクトの目的・概要

このプロジェクトは、余市町における観光資源の活用とTVドラマなどによるコンテンツツーリズムの検証(経済波及効果分析)、長期的な観光戦略の検討を行うことを目的としています。

余市町が観光地としてのブランドアップを図ることで、小樽・札幌との広域観光圏形成も可能となり、地域経済活性化につながるものと考えています。

2. 具体的な取組内容

7月23-24日の日程で北海道新幹線開業の影響調査を実施、新函館北斗駅、木古内駅を訪問したほか、道の駅(木古内)の稼働状況の調査を行ないました。新函館北斗駅では、乗換が主体で、札幌や函館市内に向かう乗客が多く、駅周辺の活性化に欠けることが確認されました。一方で、木古内駅の調査では、新幹線駅と道の駅を連携させ、地域製品のPRを行うことで、地域活性化の拠点として活用、成果が出ていることが確認できました。道の駅を、単なる情報発信拠点や物産販売の場所ととらず、地域の方も利用する交流の拠点と位置づけたことが成功要因と思われます。

これらのことは、これから新幹線の札幌への延伸を控える、ニセコ地域、小樽地域について、参考となる事例と考えております。

新函館北斗駅



木古内駅



木古内道の駅



過年度で得られたデータを分析、今年度の調査結果も踏まえて、論文執筆の作業を行っているところです。

事例の比較

ドラマ	放映による効果	所縁の施設
北海道余市町【マッサン】	放映前から始まり、現在も継続	ニッカウキスキー蒸留所
山梨県甲府市【花子とアン】	放映中の3か月	戦前の空襲で建物の殆んどが消失
石川県能登市【まれ】	放映前から始まり、現在も継続	「漆器店」「輪島市役所」「朝市」
愛知県岡崎市【純情きらり】	放映後から緩やかに減少	「カクキュー八丁味噌」「まるや八丁味噌」

3. プロジェクトの成果及び地域への還元

今年度の調査・研究成果の地域還元として以下の取り組みを実施しました。

- ①「地域文化と観光資源シンポジウム(余市町主催)」への講師派遣と政策提言
- ②余市町創生総合戦略策定委員会への座長派遣と研究成果の政策への還元



北海道新聞 平成28年11月19日(朝刊) 小樽



キャラクターでつなげる地域の輪プロジェクト

プロジェクト代表者：川本 雅史

1. プロジェクトの目的・概要

キャラクターでつなげる地域の輪プロジェクトは、小樽商科大学の事務職員3名によるプロジェクトです。

大学教員のような高い専門性はありませんが、親しみやすい「**ご当地キャラクター**」をツールとして、実際に地域に足を運ばせる具体的な仕掛けづくりにより、広域連携の推進と地域活性化に取り組んでいます。



2. 具体的な取組内容

【シールリレーの昨年度からの変更点】

	平成27年度		平成28年度	
開催期間	51日間 (H27.9.19-11.8)		93日間 (H28.7.2-10.2)	
参加市町村数	19市町村		しりべし地域全20市町村	
会場数 (臨時を除く)	27		43	
	常設会場	イベント会場	常設会場	イベント会場
	24	3	26	17
トレカ配布	全会場		イベント会場のみ	

【昨年度との結果比較】

応募総数	824		1,714	
応募シール貼付総枚数	6,761		14,309	
会場シール配布総枚数	23,160		65,090	
応募者居住地	道内	道外	道内	道外
	92.8%	7.2%	79.6%	20.4%

本プロジェクトの今年度最大の取組は、昨年に引き続いての実施となるスタンプラリー形式の地域周遊促進企画「**ご当地キャラクターシールリレー-2016**」の開催です。

昨年度の実施結果、参加機関やイベント参加者の声を踏まえ、開催期間の見直しのほか、しりべし地域全20市町村との連携を達成した結果、昨年度と比較して各種数値が順調に伸びております。(左表参照)



文部科学省における企画展示



子ども霞が関見学デーの様子

また、本プロジェクトの成果を道外にも発信するため、文部科学省において3か月間の企画展示を行ったほか、中央省庁の合同イベント「**子ども霞が関見学デー**」で**ミニシールリレーを実施**しました。同イベントには100を超える多くのブースがありましたが、本学のブースには入場した子供たちの約1/3が集まり、大盛況となりました。

3. プロジェクトの成果及び地域への還元

シールリレーに関しては、11月に報告書を取りまとめ、イベント参加機関のほか、観光関係機関等に配布し、その成果を還元しました。報告書を広く配布したことにより、企業等から今後の取組の継続に関して、支援及び連携にかかる問い合わせを複数いただいています。

今後は、学内予算の公募プロジェクトという形を離れて、取組を継続する可能性について検討を進めていく予定です。



1. プロジェクトの目的・概要

小樽市立病院が新設開院し、院内メンバーによるメディカルツーリズム(MT)研究会を3年前から発足させ、事業化に向けての調査研究活動を実施し、合わせて院生の学術成果促進、学部生らの教材提供をになってきた。昨年度はグローバルメディカルツーリズム(MT)事業として健康診断事業(自由診療)に絞り、観光事業との連携した事業を検討し、本研究会の調査報告内容を基に小樽市立病院とメディカルツーリズムジャパン(株)との業務契約(「メディカルツーリズム業務委託契約書」)を締結することになった。本年度は上記契約による利用者1号を迎え入れ、その利用度に関する調査を実施。さらに国内観光客(主に日本人)を対象としたMTの事業化を促進するために、病院および外部業者(旅行業者・宿泊事業者)を交えビジネスプランを策定し、事業展開を支援することを目的とした。

2. 具体的な取組内容

①平成28年7月7日、中国からのメディカルツーリズム利用者に対して、満足度調査を実施。調査結果から、より適切な事業プランを検討。②国内のメディカルツーリズムの促進を検討し、小樽市内業者(DCTツーリズム社)とのビジネスモデルを構築。内容としては検診のオプションの設定、価格設定、地域の宿泊事業者(グランドパークホテル)との宿泊プランと食事メニューの策定を研究会にて検討した。更に私立病院の栄養部の協力によるヘルシーメニュー(仮称)を検討し宿泊の魅力度を高める企画を策定。

教育の視点では当該①については博士後期課程院生が学会報告を実施できるよう研究資源を提供。②については学部学生(ゼミ生)の研究会参加により、従来実施されている他医療機関と宿泊施設とのMTプランでの健康メニューの検索や宿泊施設担当者へのヒアリング調査を実施させ有益な視点を得た。

3. プロジェクトの成果及び地域への還元

本研究会の活動の成果として小樽市立病院(契約者)とメディカルツーリズムジャパン(株)との業務契約(「メディカルツーリズム業務委託契約書」)によりメディカルツーリズムで入国する顧客及び医療滞在査証で入国する顧客に対し、委託者が小樽市立病院において試験的に実施する健康診断業務の業務委託契約”が締結され、契約に基づいて7月に中国からの検診利用者第一号が実現した。その際の利用度調査を実施し事業プランの改変がなされた。さらに国内旅行者向けの医療ツーリズムの事業のビジネスモデルの策定をおこない、構築プロセスの過程で学部生・院生を交え研究教育資源として活用した。

・教育成果・学会報告:「地域医療機関の活性化に関する一考察」(宋・伊藤(2016) 地域活性化学会第8回全国研究大会報告。(報告者宋潔は当該研究データを元に博士号学位取得)

・地域への貢献:国内旅行者向け医療ツーリズムの事業モデル(市立病院栄養部の協力によるヘルシーメニューを活用した旅行プラン(グランドパークホテル小樽))は現在策定中であり、完了後速やかに、旅行業者によるPR活動が実施される予定。

1. プロジェクトの目的・概要

プロジェクトの最終的な目標は、現在ウェブ上に構築してきている『おたるくらし』マップ (<http://otaru-class.com/map/>) を実際に多くの人に使ってもらい、小樽を訪れてもらえるようにすることであり、本プロジェクトではその予備調査を行った。

2. 具体的な取組内容

『おたるくらし』マップの使い勝手の改善を現在行いつつある。まず、2017年2月末までの『おたるくらし』の記事の位置データを入力した。2017年2月に(株)K2の中山氏と話し合い、おたるくらしマップを以下のように改善するようにした。

- 『おたるくらし』マップのアイコンをクリックすると使い方が出る。
- 写真をクリックしたらテキストが出る。
- 写真をもう1度クリックしたら写真が消える。
- テキストをもう一度クリックしたらテキストが消える。
- 地図上のアイコンのサイズを小さくする。または、地図の大きさに応じて変わるようにする。
- おたるくらしの絵と写真・テキストが重ならないようにする。

この作業が完了した後、実際に、『おたるくらし』フェイスブックユーザに『おたるくらし』マップを使ってもらい、これまでこちらが気づかなかった問題点がないかどうか、更なる修正点の洗い出しを行う予定である。

なお、これまでの話し合いの中で、『おたるくらし』マップの地図上の記事を追っていくだけでは、自宅にいながら、一度も訪問したことの無い小樽のイメージを醸成するのは難しいのではないかと結論に達した。そこで、ドローンを使い、小樽駅前から中央通りまで行ってそこから運河を北から南までゆっくり飛び、その後堺町通り、寿司屋通りを通過して小樽駅に戻る動画を作成し、『おたるくらし』マップに置くことを現在考えている。旅行のシミュレーションになる小樽のイメージを、こうした動画を記事と合わせて使うことで、旅行前につけることができる。

小樽のイメージは良いイメージでなければならない。ドローン撮影で安価に得られる、立体的でダイナミックな映像は、そうした良いイメージを潜在的な観光客の心に醸成するのに有効であると思っている。

3. プロジェクトの成果及び地域への還元

Webの情報を積極的に活用し、かつ、自らも情報発信を行うタイプの人たちのWeb上でのコミュニケーション行動を調べる研究が始まりつつある。研究面で見るとき、本プロジェクトの成果は、代表者のこうした研究の成果になっている。今後、フェイスブックのようなソーシャルメディアが現実に提供するデータが、研究にどう活用できるか、学会誌のデータとしてどの程度容認されるか、などを確認しながら、さらにプロジェクトを進めていきたい。また、『おたるくらし』マップの認知度を高め、誰もが簡単に使えるアプリを作ることが地域への還元になると考えている。

小樽・後志地域における北前船の歴史的価値の観光資源化プロジェクト代表者:高野 宏康

1. プロジェクトの目的・概要

●プロジェクトの目的

小樽・後志地域の発展に重要な役割を果たした北前船の調査研究を通じて、その歴史的価値の地域観光資源化を推進し、小樽と後志地域をつなぐ新たな広域連携・観光ルートを開発を目指します。本年度は特に、後志地域での調査、後志および札幌圏への情報発信に力を入れました。

2. 具体的な取組内容

●調査研究（平成28年5月～11月）

- ①北前船から北洋漁業への転換期に関する資料を発見しました（択捉島水産会関連写真）。北海道と北前船の関係を示す貴重な資料と評価され、新聞等で紹介されました。
- ②これまで知られていなかった小樽・後志地域での北前船のゆかりを多数確認しました。寿都や島牧に越前産「笏谷石」があること、神恵内の遭難者供養塔などを紹介しました。

●情報発信による地域観光資源化

- ①イベント「和と洋の祈り」では、能舞台を会場に、建材の佐渡神代杉などのゆかりを紹介し、北前船の積荷「着物」をテーマにショー・演奏会を実施しました。
- ②講演（小樽観光ワークショップ、岩内町公開講座等）では、研究成果を観光まちづくり関係事業や、後志の自治体主催の講演会で紹介し、幅広く情報発信を実施しました。
- ③イベント・ツアー「雪あかりの歴史浪漫」では、雪あかりの路期間中に、観光客や市民に北前船と小樽の関わりを紹介しました。札幌発のバスツアーを実施し、札幌圏の観光客に小樽へのヒストリーツアーの魅力を知っていただきました。
- ④パネル展「北前船と小樽・後志～歴史文化のルーツを訪ねて」ではJR小樽駅コンコースに展示パネル8枚を設置し、観光客や市民に研究成果をわかりやすく紹介しました。
- ⑤シンポジウム「北前船と小樽・後志～歴史的価値と観光資源化を考える」は、小樽・後志を対象に、歴史的価値と観光資源化の両面を検討する史上初の北前船シンポジウムとしてこれまでの成果を紹介しました。参加者は231人となり大きな反響がありました。



左:「和と洋の祈り」(9/10)
中:「雪あかりの歴史浪漫」(2/11)
右:「北前船と小樽・後志」(3/4)

3. プロジェクトの成果及び地域への還元

以上の取り組みにより、小樽・後志の北前船の歴史的価値の調査研究、観光資源化は大きく進展したと言えますが、イベントなど一過性の話題に留まらないため、成果をまとめた冊子を図書館や関係機関に寄贈し、デジタル・アーカイブに登録するなど、持続する取り組みを実施しました。また、北前船関連の全国学会、各地の地域振興事業などに情報提供を行い、本学の地域志向型教育プログラムで成果を還元しました。

旧国鉄手宮線で巡る外国人観光客のための小樽散策マップ作成プロジェクト

プロジェクト代表者：井上 典子

1. プロジェクトの目的・概要

本プロジェクトの取組は、小樽市教育委員会と小樽市の依頼により、本学学生の学習活動の一環として、小樽市内に残る産業遺産である旧国鉄手宮線散策路とその周辺を外国人観光客に紹介する英語版観光マップを作成することです。本プロジェクトの目的は主に2つあります。まず、学生が小樽市の観光担当職員や民間の観光関連事業者などと連携し、実体験を取り入れた学習を通じて、小樽市の基幹産業である観光への知識と理解を深めながら英語運用能力の向上を図ること。そして、これまで旧手宮線をキーにした観光ガイドマップは作成された例がなく、運河や堺町だけではない小樽観光の魅力を、増加を続ける外国人観光客に発信することで回遊性を高め経済効果に繋げることです。また、学生は自分たちが作成したマップが外国人観光客に使われ、小樽の観光振興に寄与することで大きな達成感を得ることができ、今後の学習意欲向上や就職活動にも良い影響を与えるのではないかと期待しています。

2. 具体的な取組内容

2016年6月より取組を開始しました。まずはマップに反映させるための現地調査を繰り返し行い、マップに記載すべき博物館などの施設や文化遺産、観光施設、飲食店等をピックアップしました。8月末には、小樽運河等で外国人観光客へのアンケート調査も行いました。9月以降、調査内容などを整理し、協力者の監修を受けながらマップに載せる箇所の選定とレイアウトの決定、日本語版の作成を開始し、11月には日本語版を完成させました。その後、英語への翻訳作業を開始し、随時、協力者の監修を受けながら、校正作業を繰り返し行い、2017年2月に英語版が完成しました。

平成26年度より毎年、英語観光マップを作成してきていますが、今年度のマップでは、今までの観光マップをさらに「進化」させたいと思い、新しい発想を取り入れました。それは、手宮線の歴史や古い映像など、マップで説明しきれないことを紹介するために、新たに英語の動画を制作した点です。マップ上に印刷されたQRコードを読み取ることで、学生たちが英語で紹介・解説を行う動画を見ることができるよう工夫を凝らしました。

3. プロジェクトの成果及び地域への還元

小樽市には旧手宮線をキーとした観光パンフレットは存在していませんでした。2016年度は寿司屋通りから総合博物館本館までの散策路の内、博物館側の最後の部分の工事が終わって全線が開通することになり、手宮線を小樽の観光資源として改めて発信する絶好のタイミングであると考えました。そこで、手宮線を使って、歩いて小樽観光を楽しむことができるような英語版沿線紹介マップを作成し、外国人観光客の回遊性を高めることにより、運河や堺町だけではない小樽の魅力を外国人に伝え、滞在時間を伸ばすことにより、経済効果を高めることが期待されます。また、このマップを市外での観光キャンペーンなどに使用することで、リピーターの来樽意欲の向上にもつながるのではないかと期待しています。

学生においては、実際に小樽観光の最前線で求められている観光案内ツールを自らの手で創意工夫しながら作成したことで、単に学習効果だけではなく、職業訓練の意味でも大きな成果があったと感じています。さらにプロジェクト参加による社会人との交流、英語運用能力の向上などについても学生生活において得難い経験のチャンスを提供する機会となったのではないかと考えています。



1. プロジェクトの目的・概要

本プロジェクトの目的は、地域企業の成長戦略のメカニズムを明らかにすると同時にその成果を地域企業家への企業家教育に活用することである。とくに本研究では、地域企業家への研究成果のフィードバックならびに企業家教育を念頭に進めていく。具体的には、後志地域の地域企業と道内ならびに道外の地域企業の先進事例の比較ケーススタディを行ったうえで、論稿等の発表ならびに学部・大学院の授業やその他講演会を通じて企業家教育を行っていく。

2. 具体的な取組内容

先進事例の調査・分析に関しては、当初の計画のうち、地域企業の中から最も先進事例と判断した「北海道テレビ放送」や「北海道日本ハムファイターズ」への調査・研究を中心に実施した。「北海道テレビ放送」は、地域メディアを標榜し、北海道の地域資源の再発見とその発信にいち早く取り組むテレビ局として注目に値する企業である。本プロジェクトでは、昨年度、同社の関係者15名へのインタビュー調査を実施し、インタビューデータおよび一次資料の提供を受けている。本年度では、収集されたデータの精査・分析および研究成果として論文の執筆・公表に努めた。加えて、地域密着型のプロ野球球団経営でSports Communityの実現を目指す「北海道日本ハムファイターズ」に関しては、学生とともに同社のミドル社員に対するインタビュー調査が実施された。既にデータの精査・分析が完了し、論稿や講演会のケーススタディとして研究成果を公表した。

また、地域への還元としては、これまでの研究成果を受けて複数の論稿を執筆した他、地域の企業家向けの講演会などで講演を実施した。論稿は、『ほくとう総研情報雑誌 NETT』、『商工金融』に掲載された。これらの雑誌は、地域の中小企業や地域の自立的・持続的発展に貢献することを目的に発行されており、今回の論稿掲載は研究成果の地域還元として大きな効果が期待できる。また、講演は、北洋銀行や北海道中小企業同友会主催の講演会において、これまで調査・分析を行ってきた企業のケーススタディを中心に、地域企業の成長戦略や組織づくりについての指針を示した。

以上のように、本年度は、事例の本格的な調査・分析に加えて研究成果の公表に努めた。

3. プロジェクトの成果及び地域への還元

研究成果は下記の通りである。なお、地域への還元は論稿等を通じて行われた。

【学会報告】

笹本香菜「企業組織におけるドメインの深化に関する研究」日本経営学会北海道部会、北海道(北海学園大学)、2016年7月23日。

【講演会】

加藤敬太「老舗企業の100年経営の経営学—価値創造の組織づくり—」北洋銀行札幌南はまなすクラブ講演会、2016年5月26日。

加藤敬太「発想の経営学—税理士とクライアントの新たなつながり—」北海道税理士会札幌西支部研修会、2016年6月3日。

加藤敬太「価値創造の企業経営—経営学の基本と企業経営の本質—」北海道中小企業家同友会とかち支部中堅幹部学校、2017年2月3日。

加藤敬太「発想の経営学—価値創造の組織創り—」札幌西間税会、2017年2月22日。

【論文】

加藤敬太・笹本香菜(2016)「北海道テレビ放送におけるドメイン戦略—地方テレビ局から地域メディアへの転換とドメイン・コンセンサス—」『経済論叢』(京都大学)第190巻, 第2号, pp.19-38。

【論稿】

加藤敬太(2016)「老舗の経営学」『ほくとう総研情報雑誌 NETT』第92号, pp.14-17。

加藤敬太(2017)「地域企業の創造的活動と地域オープン・イノベーション」『商工金融』第67巻, 第1号, pp.67-68。

地域の問題を知り、討論を通じて解決のきっかけを考えるための 分野横断的ゼミ対抗ディベート大会 プロジェクト代表者：柴山 千里

1. プロジェクトの目的・概要

本プロジェクトは、後志の直面する課題をテーマに据え、経済学、言語学、法学にわたる多分野のゼミが対抗ディベート大会を行うものである。まず、最初の3回では、各回2～3の試合のテーマのうち、ひとつを小樽や後志の問題とする。それらの大会で扱ったテーマや議論内容を事後検証し、更に改良を加えた形で、小樽・後志が直面する現代的なテーマを選んで、市民に広く公開する形で第4回ゼミ対抗ディベート大会を行った。

2. 具体的な取組内容

最初の3回は、5月26日、7月14日、11月24日に開催した。3つのテーマのうち1つを小樽・後志関係のテーマとした。第1回目は「小樽の観光客誘致の対象を日本人主体にするべきか外国人主体にするべきか」、第2回目は「小樽へのカジノ誘致に賛成か反対か」第3回目は「北海道新幹線の新小樽駅は必要か不必要か」を議題にしてディベートを行った。公開ディベート大会では、事前に学内HP、大学のブログ「商大くんがいく!」、プレスリリース、市内公共施設へちらしとポスターを配布するなどして告知し、1月26日に開催した。テーマは、「小樽商大を市街地に移転すべきか否か」「泊原発を再稼働させるべきかどうか」「小樽運河に続く観光地として相応しいのは旧手宮線か天狗山か」であった。事前準備では、グローバル戦略推進センター研究支援部門の高野宏康研究員や小樽市産業港湾部の中野弘章部長のご助言を頂き、インタビューや現地調査、資料収集を行った。

3. プロジェクトの成果及び地域への還元

第一の成果は、学生への教育効果である。通常のディベート大会で得られる教育効果(主体的な学習態度、ゼミ生同士のチームワーク、プレゼン・議論する能力の向上)に加えて、学生が小樽や後志に興味を持ち研究したこと、公開イベント成功に向けてゼミ同士のチームワークが醸成されたことが上げられる。

第二の成果は、公開ディベート大会により、様々な視点や考えを市民に提供できたことである。市街地の会場を借りられず学内で開催したせいもあり、見学者は10名ほどであったが、アンケートの回答では、好意的な意見が多数であった。



第4回ディベート大会の様子

井上典子ゼミ(管理センター)・小林友成ゼミ(企業法務科)
中島大樹ゼミ(経済学類)・柴山千里ゼミ(経済学類)

小樽商科大学地(知)の拠点整備事業プロジェクト

4ゼミ対抗ディベート大会 2016年度最終決戦!

日時：2017年1月26日(木) 14:45～

会場：小樽商科大学4号館160番教室

第1回戦 小樽商科大学校地について(開始予定 14:45)

「小樽商大を市街地に移転すべきか」

賛成側：小林ゼミ vs. 反対側：中島ゼミ

第2回戦 泊原発の再稼働について(開始予定 15:35)

「泊原発を再稼働させるべきか」

賛成側：柴山ゼミ vs. 反対側：小林ゼミ

第3回戦 小樽市の観光地について(開始予定 16:25)

「小樽運河に続く観光地として相応しいのは旧手宮線か天狗山か」

旧手宮線側：中島ゼミ vs. 天狗山側：柴山ゼミ

ディベートとは、ある議題について賛成の立場と反対の立場に分かれて論理的な証拠資料に基づき論理的に立論と討論をし、議論がどれだけ強みがあるかで勝敗が決まるゲームです。各ゼミチームの立場は、自分たちの価値観と関与なく幹事の井上ゼミにより割り振られています。審判は井上ゼミが担当し、2試合を戦ったゼミが優勝となります。それぞれの立場の論拠性を対しコミュニケーション力を尽くして提示しあうゲーム。バトル、ぜひ見に来て下さい!



本学学生・教職員・市民の方、
どなた様でも自由にご入場
ご見学頂けます。

問合せ先：産業戦略課 3301号
chihara@starc.kanai.ac.jp

「しりべし一般教養テスト」の作題を通じた地域理解の試み ～テスト理論に基づく地域連携と興味喚起の実践～ プロジェクト代表者:辻 義人

1. プロジェクトの目的・概要



【ご当地クイズへの注目】

ご当地クイズの効果として、地域に対する理解を深め、興味喚起が期待される。しかし、無計画に作成したクイズ問題では、いわゆる「内輪ネタ」や「自己満足」となってしまう、必ずしも参加者の理解や興味喚起を促進しないことが考えられる。

本取り組みでは、ご当地クイズのあり方について、テスト理論(教育心理学、よりよいテスト問題の作成手法)の枠組みに基づき、いくつかの指標を用いた実践と検証を行う。これを通して、地元の方々に納得していただけるご当地クイズに関する知見が得られることが期待される。

【調査スケジュール】

一次調査:小樽に関するご当地クイズ(2016年11月)

二次調査:後志に関するご当地クイズ(2017年3月)

2. 具体的な取組内容

2017年3月に「後志ご当地クイズ(15問)」を実施、検証を行った。ご当地クイズの各設問の良否を検討するため、テスト理論(教育心理学)に基づく3つの指標を用いた。指標の意味と、代表的な検証結果について以下に示す。

【問題検証の指標】

正答率: その問題が、どの程度簡単だったか。高いほど、易しい問題であった。

弁別指数: 成績上位群と下位群の正答率の差。高いほど、理解度の測定に適した問題である。

IT相関: その問題の成否と総合得点との関係性。高いほど、総合得点と強く関係している。

【良好問題(例)】

かつての火山の噴火口に位置し、マスコットキャラクター「あかりん」がPRしている自治体は?

[風連町、黒松内町、赤井川村(○)、赤平市]

→いずれの指標も理想的な値を示した(正答率76.4%、弁別指数36.1、IT相関0.56)

【不良問題(例)】

リンゴ栽培が盛んであり、ニッカウキスキーが創業した市町村(当時、大日本果汁株式会社)は?

[仁木町、寿都町、共和町、余市町(○)]

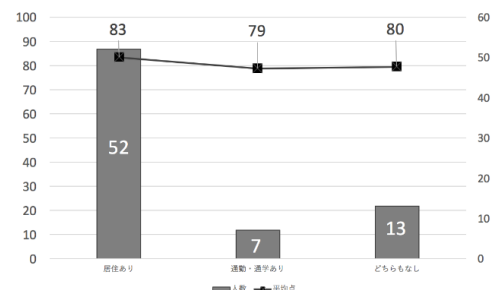
→問題が易しすぎ、テストの役割を果たしていない(正答率98.6%、弁別指数2.8、IT相関0.27)

3. プロジェクトの成果及び地域への還元

●地元の方々に愛されるご当地検定について、問題の質や難易度に関する検証が必要。難易度の高い「資格形式」や、興味喚起を促す「クイズ形式」など、目的に合致した問題設計と検証が求められる。

●この結果は、後志総合振興局に報告し、今後の展開(クイズ問題の実施など)に向けた取り組みを実施中。

●今後の課題として、学生にご当地クイズを作成させることで、地域に対する理解深化・興味喚起の可能性を検討する。



後志地域の情報を「効果的」かつ「継続的」に伝える方法

プロジェクト代表者: 木村 泰知

1. プロジェクトの目的・概要

本プロジェクトでは、学生とともに、小樽や後志の地域情報を「効果的」かつ「継続的」に伝える方法について検討する。「効果」と「継続」は、トレードオフの関係にあり、コンテンツの質を上げて効果を高めると更新や運用のコストが増加し、継続を意識して運用や運用のコストを抑えるとコンテンツの質が低下する傾向にある。そこで、本プロジェクトでは、最新技術動向を調査し、最新の技術を活用することで、このトレードオフの問題を解決する。

2. 具体的な取組内容

本プロジェクトでは、最初に、学生を連れて、東京での調査を行った。その後、後志地域の情報を「効果的」に伝える方法として「ドローンを用いた空撮」によるコンテンツ制作を行っている。また、「継続的」に伝える方法としては、お金を生み出すしくみが必要であり、「ビジネス化の可能性」を明らかにするための実験を行っている。ビジネス化の実験としては、「後志地域の商品」を「ふるさと小包」として送ることによるビジネスが可能であるか、クラウドファンディングを用いて、目標金額を20万円として、ニーズ調査を続けた。

<https://camp-fire.jp/projects/view/12514>



3. プロジェクトの成果及び地域への還元

効果的な方法としては、ドローンを用いた映像制作をによる成果を上げている。具体的には、動画を大学生協前のサイネージ、および、http://www.sea-na.net/?page_id=2750 で公開している。継続的な方法としては、クラウドファンディングによるビジネス展開を試みたが目標金額を達成することができず継続するための費用を集めることが難しいことが明らかになった。

小樽・後志におけるヒューマンストーリーの発掘と地域資源化

プロジェクト代表者：後藤 英之 プロジェクトリーダー：高野 宏康

1. プロジェクトの目的・概要

●プロジェクトの目的

小樽・後志地域では、近代以降、多様な歴史文化が展開していますが、その担い手たちが高齢化などにより年々減少し、記憶の風化が進んでいます。本プロジェクトの目的は、小樽・後志地域の人たちのヒューマンストーリーを調査・記録し、地域資源として活用することです。

2. 具体的な取組内容

●地域情報の学習および取材方法・記事のまとめ方の修得(採択後～平成28年7月)

授業(総合科目「グローバルズムと地域経済」)内で、小樽・後志地域の歴史文化および社会経済の特徴、取材方法、記事のまとめ方についての講義および、小樽市内バスツアーによるフィールドワークにより、地域社会に対する理解を深め、取材と記事作成方法を習得しました。

●インタビュー実施と記事作成(平成28年6月～7月)

小樽のまちや歴史に詳しい市内在住の23人に学生が各3～4名のチームでインタビューを実施。1500字程度の記事を作成しました。

●ゲスト講師とのトーク&ディスカッション

ゲスト講師(2名:北海道新聞記者、ライター)を招聘、取材と記事作成方法についての講演および学生とのトーク&ディスカッションを実施しました。

●インタビュー先と学生の公開座談会(平成28年12月5日、会場:三川屋)

花園エリアのインタビュー先5名と、担当学生による公開座談会を実施し、授業内容およびの成果について情報発信しました(「小樽のひとに学ぶ～花園界隈のいまむかし～」)

●インタビューと座談会をまとめた冊子発行(平成29年3月、1500部)*予定

インタビュー記事23人分と公開座談会を収録した冊子を発行します。小樽市内での配布、市立小樽図書館等へ寄贈し、地域資源として活用できるようにします。

3. プロジェクトの成果及び地域への還元

学生が小樽・後志の地域情報、取材方法、記事のまとめ方を学んだ上で、同地域の昭和30～40年代の歴史・社会・風俗・文化などに詳しい人にインタビューして、記事にまとめました。その成果にもとづき、インタビュー集の発行、座談会の開催などを実施し情報発信、着地型・交流型観光コンテンツなどの地域資源としての活用・定着化を図りました。



取材の様子(運河プラザカフェにて)



北海道新聞(平成28年7月14日付)



(株)小樽水族館公社および(株)北海道マリパークにおけるBSCによる戦略の比較

プロジェクト代表者: 上山 晋平

1. プロジェクトの目的・概要

本プロジェクトは、ゼミナールの学生が主体となり、地域の観光の要となっている2つの水族館事業者と交流することで、学生の地域に対する理解を深め、将来、地域経済の活性化に貢献する人材となるための基礎力を養うことを目的とした。財務会計論を専攻する二村ゼミナールと管理会計論を専攻する上山ゼミナールの学生(計23名)が、財務省北海道財務局の協力を得て、小樽市の第三セクターである(株)小樽水族館公社と登別市の第二セクターである(株)北海道マリパークの戦略について、インタビュー調査にもとづいて、会計ツールの1つであるバランスト・スコアカード(BSC)を使って、比較を行い、課題および解決策を検討した。

2. 具体的な取組内容

(株)小樽水族館公社と(株)北海道マリパークにより、事前に頂いた資料および公開資料にもとづき、市立小樽美術館にてグループワークを実施し、戦略について、課題および解決策を検討した。その中で分からない箇所を質問票に纏めた。訪問時に見学を行った後、質問票にもとづき、インタビュー調査を実施した。その後、大学図書館にてグループワークおよび公開で報告会を実施した。報告書を作成し、(株)小樽水族館公社と(株)北海道マリパークに提出した。

グループワークの様子



グループワークの様子



インタビュー調査の様子



インタビュー調査の様子



報告会の様子



報告会の様子



3. プロジェクトの成果及び地域への還元

地域の事業に関わることで、学生の地域に対する理解を深めることができた。異なるゼミナールに所属する学生がグループワーク、インタビュー調査および報告会を共にすることによる学生間の交流、地域で活躍する事業者の指導のもと、学生と地域の事業者の交流が図られた。これにより、学生の地域貢献に対する問題意識、動機付けを高め、将来、地域経済の活性化に貢献する人材になることが期待される。

外国語表示の拡大等を通じた、おたる水族館の利便性向上のための取り組み

プロジェクト代表者：サーマン・ジョン

1. プロジェクトの目的・概要

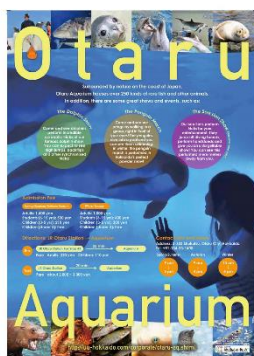
本プロジェクトは、おたる水族館における外国語表示を充実させることを手がかりとして、外国人観光客の利便性を向上させ、同時に来館した外国人観光客から感想や要望を聴取するなどしてさらなる改善のあり方を探ることを通じて、地域の資源の有効活用のために取り組むことを目的とする。サーマン教授のゼミ生をはじめとする有志の学生の自発的な活動として、学生が地域の社会人と密接に連携・協働する機会を設けることを通じて、顔の見える社会連携のあり方を模索する。

2. 具体的な取組内容

- ①小樽水族館の造りやレイアウトを把握するためゼミ生たちが数回に亘り水族館へ行きました。
- ②次に英・中・韓各語表記を必要とされる展示や掲示物を確認し、英・中・韓各語表記を作成する。
- ③英・中(簡体/繁体)・韓各語のチラシを作成。
- ④水族館内のレストランの使用法を英・中・韓各語表記を作成する。
- ⑤小樽駅から水族館までの水上の行き方を実際に行いながら撮影。
- ⑥冬・春・夏・秋の各イベントやショーの館内放送を英・中・韓各語に翻訳して録音した。

3. プロジェクトの成果及び地域への還元

③



⑥

【オタリア・イルカショー】

放送原稿：本日はご覧いただきありがとうございます。お客様にお知らせを申し上げます。10時より別館イルカスタジアムにおきまして、オタリア・イルカショーを行いますので、どうぞご覧ください。繰り返し、お客様にお知らせ申し上げます。○時計より別館イルカスタジアムにおきまして、オタリア・イルカショーを行いますので、どうぞご覧ください。

English: We have an announcement. At 10 o'clock, there will be the sea lion show, ending with the dolphin show in the dolphin stadium. Please proceed to the dolphin stadium next to the main building. We hope you enjoy them. Once again, we have an announcement. At 10 o'clock, there will be the sea lion show, ending with the dolphin show in the dolphin stadium. Please proceed to the dolphin stadium next to the main building. We hope you enjoy them. Thank you.

Korean: 오늘도 저희 오타루 수족관을 찾아주셔서 감사드립니다. 손님 여러분께 안내말씀 드리겠습니다.

잠시 후 10시 부터 발판에 있는 돌고래 스타디움에서 오타리아 돌고래쇼가 시작되었습니다. 관망해 주시기 바랍니다. 다시 한번 안내말씀 드리겠습니다.

잠시 후 10시 부터 발판에 있는 돌고래 스타디움에서 오타리아 돌고래쇼가 시작되었습니다. 관망해 주시기 바랍니다. 감사합니다.

Chinese: 各位游客大家好。南美白獅和海豚表演將於上午十點在海豚館進行。歡迎大家前去觀賞。再次提醒提醒大家。南美白獅和海豚表演將於上午十點/上午十點三十分/上午十一點三十分/下午十二點三十分/下午一點/下午兩點/下午兩點三十分/下午三點/下午四點在海豚館進行。歡迎大家前去觀賞。謝謝。

②・④

レストランのセルフサービスについて

①自動販売機でチケットを購入してください。自動販売機の番号と右手のポスターに表示されている番号とが照合できるようになっています。メニューを決めお金を投入しましたら青く光っているボタンを押し、チケットとお釣りを受け取ってください。

Please purchase the meal ticket(s) from the vending machine. You can match the numbers on the buttons on the vending machine with the poster to your right. After you make your choice(s), please press the blue flashing button to receive your tickets and change.

메뉴를 선택하시고 티켓을 구입하여 주십시오.
请在贩售机购买餐券。

②チケットをカウンター前にはいる黒いエプロンをつけた係員に渡してください。数字のついた赤い札をお受け取りください。

Please give your ticket(s) to the attendant in the black apron in front of the counter. You will receive a red tag with a number on it.

티켓을 카운터 직원에게 제출하여 주십시오.

请把餐券交给柜台的员工手中。

③料理ができあがったら係員がお持ちの赤い札の番号をお呼び出しますので、カウンターで札と食事を引き換えてください。

When your meal is ready, the attendant will call the number on your red tag so please bring it to the counter to get your meal.

음식이 나오면 직원이 부르겠습니다. 티켓을 가지고 카운터에 외주십시오.
当食物准备完成，员工将会叫餐券的号码，请将你的餐券给员工手中，得到你的食物。

④食事したあとは、食器をトレーにのせ青い掲示がしてある指定の場所に片付けてください。

When you have finished eating, please take your tray and dishes to the window with the blue sign above it.

식사가 끝나면 식기를 지정된 곳에 반납하여 주십시오.

请在餐后，将餐具送回指定地方。

⑤



